

2020年度 国内研究制度 研究員

所属	氏名	職位	種別	期間	主たる研究先	研究題目	研究報告	備考
文	山本 啓介	教授	長期 (1年)	2020.4.1 ～ 2021.3.31	国文学研究資料館	室町期における朝廷・将軍家の和歌・連歌の研究	中世勅撰和歌集の一つ『続千載和歌集』について同集が巻七に「雑体」部を設けたという異例の撰集を行った理由について考察した「中世勅撰和歌集考—『続千載和歌集』巻七「雑体」をめぐって」を『青山語文』（51号、2011年4月）に掲載。 勅撰和歌集撰集の故実と『愚秘抄』の成立過程について考察した「勅撰和歌集の故実について—「此奥口伝所々抄出」と『愚秘抄』—」を和歌文学会（2020年12月12日）にてオンライン上で口頭発表。	
	飯島 渉	教授	長期 (1年)	2020.4.1 ～ 2021.3.31	長崎大学熱帯医学研究所	20世紀日本における風土病の制圧と国際保健への応用に関する歴史学的研究	20世紀の日本は、多くの風土病を制圧し、医療や公衆衛生の面で大きな達成を実現しました。マラリアは三大感染症として、また、リンパ系フィラリア症、日本住血吸虫症などは、「顧みられない熱帯病（NTDs）」として、国際的には依然として大きな健康上の課題であり、日本の経験は制圧のためのレッスンとして大きな意味を持っています。「感染症の歴史学」や「風土病の歴史学」は、歴史学を国際保健の場面に生かす実践的な役割を担っています。こうした研究は、2020年の世界を席卷したコロナウイルス感染症の収束のためにも重要な知見を提供するものです。	
経済	吉田 健三	教授	長期 (1年)	2020.4.1 ～ 2021.3.31	西南学院大学	確定拠出年金時代における支援政策・活動の国際比較～米国の経験を起点に	2020年度中の国内研究期間中の主な実績は次の2点である。 ①吉田健三（2021）、「アメリカ年金システムの再構築：「モデル給付」における安定と変化」 青山学院大学経済研究所『経済研究』13号、79-130頁 ②吉田健三、「個人責任社会」における年金政策～2006年年金保護法から2019年SECURE法まで」 社会政策学会 第141回（2020年度秋季）大会 10月24日 オンライン開催全国大会	
経営	亀坂 安紀子	教授	長期 (1年)	2020.4.1 ～ 2021.3.31	一橋大学(経営管理研究科)	ファイナンスと関連分野の実証研究	ノーベル経済学賞を受賞したYale大学のRobert J.Shiller教授と共同で、投資家を対象としたアンケート調査を実施し、収集データの分析結果の一部について大手町サンケイプラザで開催された日本FP学会年次大会にて招待報告を行った。この報告の内容は、同学会の発行雑誌『ファイナンシャル・プランニング研究』に講演録として掲載された。また、World Database of Happiness の構築者として知られるRuut Veenhoven氏と日本の幸福度に関する共同研究を進め、その成果はSurvey Reseach Methods に掲載された。文部科学省の事業の一環として講演も行った。	
国政	猿橋 順子	教授	長期 (1年)	2020.4.1 ～ 2021.3.31	早稲田大学 国際コミュニケーション研究科	祝祭場面におけるディスコースの分析：国家を冠するフェスティバルを中心に	新型コロナウイルス感染症の拡大により、調査を予定していた国家を冠する催事のほとんどが中止となったが、2020年11月に感染症対策を講じて開催されたベトナムフェスティバルの実地調査に取り組んだ。成果は『国フェスの談話：多言語公共空間の社会言語学』（三元社、近刊）に含めた。 この間、国際交流活動のオンライン化が進み、実地調査との接合など方法論上の検討も急務である。予備的調査の成果は国際学会Sociolinguistics Symposium 23 にて口頭発表を行う。当該研究課題は「多言語実践共同体の相互作用秩序の交渉と変容」（科研・基盤C・2021-24）で継続して取り組む。	